

宇輝人

vol.64

愛する地域のために
こつこつと。



平成17年度緑化環境美化功労者表彰を受けた坂井さん(左側)



坂井 明 Sakai Akira

豊野町在住。昭和17年11月18日生まれの78歳。旧豊野町時代に地元のシンボリックな公園「菅ヶ丘公園」から名付けた「菅ヶ丘愛好会」を結成。会長を務める。NPO 法人宇城環境保全隊理事、熊本県ふるさと水と土指導員としても活躍中。

若くして離れたふるさとへの思い

昭和33年に豊野中学校を卒業し、名古屋の機械関係の会社に集団就職。若き坂井少年は空腹を満たすため「お菓子を食べられるかも」と菓子製造業に転職したこともあった。19歳で舗装の資材製造や工事を手掛ける会社に就職。関西や北陸、四国で技術を磨き、28歳で結婚してからも家族と共に関西や四国への転勤を続けていた。

豊野町に帰ってきたのは45歳のとき。生まれ育った美しい自然あふれるふるさとに戻りたいという気持ちから、松橋町にある子会社の現「熊本ニチレキ」に異動を希望した。

地元をなんとかせな

帰郷すると、幼い頃に遊んだ場所が公園や広場として整備されているものの、荒れ果てている状態を目の当たりにする。「なんとかせな。」その思いから道路工事などで培った技術を生かし、一人でこつこつと環境保全活動を始めた。草を刈り、芝を



①耕作放棄された土地 ②整備され農地として復活した耕作放棄地 ③耕作放棄地をネギ畑として整備 ④菅ヶ丘公園

植え、木製のベンチに色を塗り、少しずつ作業を行う。次第に共感する地域の仲間が増え、「菅ヶ丘愛好会」を結成。その活動は地域にも認識され、市から菅ヶ丘公園や西川ため池などの管理を請けるようになった。

地域の仲間のために

「最近では個人の土地管理を頼まれます。時には、顔なじみだった人が病気になるたり亡くなったたりして依頼されることも。悲しく切ない気持ちになりますが、本人や家族の気持ちをお考えと、地域の仲間としてお手伝いせずにはいられません。」

これからもまだまだ

坂井さんは75歳の時に膀胱がんと診断された。これまで4回の手術を乗り越え、今も治療を受けながら地域活動を行う。「生きているということには何らかの意味がある。体が動く間は、頑張りたい。」と目の輝きは衰えていない。

夫を支える妻の存在

妻の祐子さん(73)は市の食生



今年金婚を迎えた坂井さん夫婦

活改善推進員協議会の会長として、「さしより野菜」と「減塩」の普及運動に取り組んでいる。明さんの元気で若々しいパワーの源は、バランスの取れた祐子さんの手料理が支えていると言っても過言ではない。

「今までやって来られたのは妻が家庭を守ってくれたおかげ。家庭を顧みず働きっぱなしで、子どもが小さい頃は久々に会うといつの間にか大きくなっていた。子育ても妻に任せっきりでした。妻に言ったことはありませんが、感謝しています。」

愛するふるさとでの夫婦二人三脚の地域活動は、これからも続いていく。